

作成上の注意

- ・ 様式中の各項目についての枠の拡大・縮小等の変更、指定されたもの以外の項目を付け加えること、及び記入しない項目の省略等、様式の加工・変更は出来ません。

2008 年度大学院博士課程後期課程国際的研究活動促進研究費申請書

ふりがなの記入漏れが多いので注意してください。	りつめい たろう 立命 太郎 印	所属研究科・回生 研究科・回生
	(ふりがな) 申請者氏名 氏名自署の場合、押印省略可	学生証番号 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 - 1
連絡先	住所 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 電話番号 (自宅) 075-465-8233 (携帯) 090-000-0000 Eメールアドレス @ss.ritsume.ac.jp	不備事項があった場合に、すぐに連絡が取れるところを記入してください。
出身国 / 地域	(外国人留学生の場合のみ記入)	
学歴	1. 2002年3月 立命館 大学_学部_学科卒業 2. 2002年4月 立命館 大学大学院博士課程前期課程(修士課程)入学 (_研究科 専攻) 3. 2004年4月 立命館 大学大学院博士課程入学 (_研究科 専攻)	
研究・職歴 (助手・RA等を含む)	1. 2004年4月~2004年4月 立命館大学 学部助手 2. 年 月~ 年 月 3. 年 月~ 年 月	
奨学金・奨励金等受給歴	(博士課程後期課程1回生以降もしくは一貫制博士課程3回生以降受給したものを記載) 1. <u>2004</u> 年度 名称: 博士課程後期課程研究助成金 支給額(年額) 60万円 2. <u>2005</u> 年度 名称: 研究 育成助成金 支給額(年額) 15万円 3. <u> </u> 年度 名称: 支給額(年額)	
日本学術振興会特別研究員申請の有無	(申請経験) 有 ・ 無	(申請経験がある場合の申請年度) 2007 年度以前 ・ 2008 年度 ・ 2009 年度 ・ 2010 年度 (平成19年度) (平成20年度) (平成21年度) (平成22年度)
研究課題	(40字以内で記載。記号・数字等も全角/半角に関わらず全て1字と数える。) に関する研究 - を通して -	
副題を記入する場合は、副題も含めて40字以内としてください。		[事務局記入欄] 申請書受理/確認日

1. 現在までの研究の状況 (図表を含めてもよいので判りやすく記述すること。様式(改変・追加不可。以下同様。)

これまでの研究の背景/問題点/解決方策/研究目的/研究方法/特色と独創的 point について当該分野の重要文献を挙げて記述のこと。

申請者のこれまでの研究経過及び得られた結果について、問題点を含め 出記載したと関連付けて説明すること。なお、これまでの研究成果を論文あるいは学会等で発表している場合は申請者が担当した部分を明らかにしてそれらの内容を記述のこと。

Blank area for writing the research status.

申請者名： **立命 太郎**

2 ~ 7 頁、記入しない項目がある頁についても必ず申請者名を記入してください。

(現在までの研究の状況の続き)

2. これからの研究計画

(1) 研究の背景 1. で述べた研究状況を踏まえ、これからの研究計画の背景/問題点/解決すべき点/着想に至った経緯等について参考文献を挙げて記入すること。

申請者名： 立命 太郎

(2) 研究目的・内容 (図表を含めてもよいので、判りやすく記述すること)

研究目的、方法、研究内容について記述すること

どのような計画で、何を、どこまで明らかにしようとするのか、具体的に記入すること。

研究計画の中で、共同研究への参画を予定している場合は、申請者の担当部分を明らかにすること。

研究計画の期間中に異なった研究機関(外国の研究機関等を含む)において研究に従事する場合、その計画を記載すること

申請者名： **立命 太郎**

(3) 研究の特色・独創的な点 以下の項目について記載すること

これまでの先行研究等があれば、それらと比較して、本研究の特色、着眼点、独創的な点
国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけ、意義
本研究が完成したとき予想されるインパクト及び将来の見通し

(4) 海外研究機関および地域における研究活動予定

本制度は、申請年度内(2007年4月1日-2008年3月31日)における通算30日以上海外研究機関等への留学・海外の地域における研究活動を行う計画を有することを要件としている。これを踏まえ、海外研究機関および海外地域における研究活動期間等を記述のこと。記述の際は、前述(2)の記載内容との整合性に留意すること。

(渡航先受入機関・指導者・渡航先における研究協力者との折衝が証明できる書類の写(推薦書・受入承諾書・電子メール等での通信記録)を添付すること。

1. 2008年6月 - 2008年7月 (計 30日)

渡航先: 国名 _____ 都市・地域名 _____ 市 _____

受入機関: (有 ・ 無) 機関名 _____ 大学 _____

受入指導者・現地研究協力者: (有 ・ 無) 所属・職名等 _____ 教授 _____ 氏名 _____

2. 2009年2月 - 2009年3月 (計 30日)

渡航先: 国名 _____ x _____ 都市・地域名 _____ 市 _____

受入機関: (有 ・ 無) 機関名 _____ x _____ 研究所 _____

受入指導者・現地研究協力者: (有 ・ 無) 所属・職名等 _____ 所長 _____ 氏名 _____

3. 200 年 月 - 200 年 月 (計 日)

渡航先: 国名 _____ 都市・地域名 _____

受入機関: (有 ・ 無) 機関名 _____

受入指導者・現地研究協力者: (有 ・ 無) 所属・職名等 _____ 氏名 _____

1カ国または1回の渡航
でなくても構いません。

通算渡航日数 合計 60 日(30日以上であること)

申請者名: **立命 太郎**

正式な推薦書や受入承諾書がなく「現在打診中」の場合は、受入予定者・研究協力者へのメールでの打診状況や活動予定機関の内容がわかる書類などを提出してください。また、渡航時期が先であるため、まだ関係書類の添付が出来ない場合は、その旨を空いている箇所に記載してください。

2009年4月1日~記入可。但し、既に終了している研究活動はパスポートの出入国スタンプの写しと活動内容概要、現地で収集した資料の写し等を提出してください。

(5) 当該国・地域において海外研究活動を行うことが必要な理由(必須)

<指導教員記入欄>

本件申請者が、当該国・地域において海外研究活動を実施するにあたっての特段の理由を認めます。

指導教員

所属・職位・氏名

印

申請者名：立命 太郎

指導教員が外留中で承諾がもらえない場合は、指導教員から下記メールアドレス宛に承諾の文面を送信するよう、指導教員に依頼してください。
メールアドレス：kic-inka@st.ritsumei.ac.jp

3. 研究業績（下記の項目について申請者が中心的な役割をはかしたものがある場合には項目を区別して記載すること。また、申請者にアンダーラインを引くこと。）

(1) 学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文または著書(査読の有無を区別して記載すること。査読の有無を区分して記載すること。査読のある場合は、印刷済および採録決定済みのものにかぎる。**査読中・投稿中のものは除く**)

著書（申請書を含む全員の氏名を、論文を同一の順番とする）題名、掲載誌名、発行所、巻号、pp 開始頁 - 最終頁、発行年をこの順で記入すること。なお、著書の所属・職については脚注に記載すること。

採録決定済のものについては、それを証明できるものをP.7の後に添付すること。

(2) 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説

(3) 国際会議における発表（口頭・ポスターの別、査読の有無を区分して記載すること）

著者(申請者を含む全員の氏名を、論文等と同一の順番で記載すること)、題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載すること。発表者に印を付すこと。

(4) 国内学会・シンポジウム等における発表 (3)と同様に記載すること

(5) 特許（申請中、公開中、取得の別を明記すること。ただし、申請中のもので詳細を記述できない場合は概要のみの記述でよい）

申請者名：**立命 太郎**